

一〇一五年六月六日

初蝉のふと空耳を疑ひぬ
回廊をなせる広縁風薰る
白シャツのオーバーサイズ風孕む

一〇一五年六月五日

涎かけ褪せし地蔵や五月闇
一掬し喉を潤す岩清水
刈り跡の虎刈り涼し広野原

磊々の河原に遊ぶ石叩
まほろばの代田を過ぎる雲の影
園児らの指すり抜けしあめんぼう

一〇一五年六月四日

康子 澄子
やよい やよい
愛正 愛正
あひる あひる

一〇一五年五月三一日

食堂は島に一軒鰯フライ
園丁がベンチ拭きゆく青時雨
もとこ なつき

毎日句会みのる選・一〇一五年六月八日

澄子 澄子
愛正 愛正
うつぎ やよい
正聖 やよい

一〇一五年六月三日

堂涼し一少年の贊美また
万緑の渓へ迫り出すテラス席
寝たきりの蓬髪を梳く薄暑かな

一〇一五年六月二日

古民家の土間に狼藉今年竹
短夜やひと日の疲れ背に残し
蟻蟻の一寸ほどが見得を切る

明日香
千鶴
きよえ

植田はや風をいなしてさざ波す
農道へ転がるもあり玉ねぎ車
緑陰のベンチに憩ふ杖二本